

魚介類の名称のガイドラインについて（中間とりまとめ）

Ⅰ．検討経緯

食品表示制度の充実強化のため、平成 11 年の農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（いわゆる J A S 法）の改正により、平成 12 年 7 月から、生鮮食品については、「名称」及び「原産地」、加工食品については、「名称」及び「原材料名」を記載することが義務付けられた。

魚介類は、輸入の多様化や同一魚でも地域や成長段階により名称が異なる等の特有な事情があることから、消費者や関係業界から、魚介類の名称に関する多くの問い合わせが農林水産省に寄せられている。

このため、平成 12 年 11 月以降、水産物表示検討会（以下「検討会」という。）及び名称作業部会において、魚介類の名称の取扱いについて検討を行い、平成 14 年 11 月 15 日に中間取りまとめ案を公表し、国民からの意見募集を行った。これら国民から寄せられた意見等を踏まえ、検討会において更に検討を加え、このたび、魚介類の名称のガイドラインとして中間とりまとめを行った。

Ⅱ．中間とりまとめの位置付け

この中間とりまとめは、J A S 法に基づく魚介類の名称のガイドラインとなるものであり、今後、農林水産省において、このガイドラインに従って、魚介類の名称について適正な表示がなされるよう普及・指導を行っていくことが期待される。

また、このガイドラインは、中間的な取りまとめであり、今後、運用状況や流通実態の変化等を踏まえ、適宜、必要な見直しを行っていく必要がある。

さらに、消費者を中心に魚介類の名称表示の適正化が強く望まれていることを踏まえ、今後、農林水産省において、魚介類の名称の一般ルール等の品質表示基準化の検討を行うことが望まれる。

Ⅲ．魚介類の名称のあり方

1．生鮮魚介類の名称

（1）生鮮食品品質表示基準の考え方

生鮮食品品質表示基準（平成 12 年 3 月 31 日農林水産省告示第 514 号）は、生鮮食品の品質に関して表示すべき事項を「名称」及び「原産地」と定め、「名称」については、「その内容を表す一般的な名称」を記載すると定めている。

また、表示禁止事項として、

- ① 実際のものより著しく優良又は有利であると誤認させる用語
- ② 同基準第3条の規定により表示すべき事項と内容が矛盾する用語
- ③ その他製品の品質を誤認させるような文字、絵、写真その他の表示を定めている。

生鮮食品品質表示基準は、生鮮魚介類にも適用されるものであることから、これを前提として、消費者の視点に立ってその名称のあり方を検討した。

(2) 一般ルール

生鮮魚介類は、種により品質や価格に違いがあるため、消費者の商品選択に際し種名は重要な情報となることから、原則として、生鮮魚介類の名称として「種名」(標準和名)を記載することとする。

他方、消費者の商品選択に資するためには、消費者に正確な情報を提供する必要がある一方で、馴染みのない標準和名等の表示によって消費者が混乱することがないように配慮する必要がある。このため、種に応じて、消費者の選択に資する観点から、属名、科名、広く一般的に使用されている呼称等を勘案し、その生鮮魚介類の内容を的確に表し一般に理解される名称がある場合は、標準和名に代えてその名称を記載することができることとする。

また、標準和名がない種については、広く一般的に使用されている和名、原産国での名称、通常取引名、学名等を勘案し、その生鮮魚介類の内容を最も的確に表し一般に理解される名称を記載することとする。

以上の考え方に従って、現在流通している生鮮魚介類の名称を例示すれば、別表1のとおりとなる。

(参考) 魚介類の学名と標準和名

○ 学名

生物の学術上の名称で、ラテン語で表記される。種の学名は、国際動物命名規約に基づき、属名と種小名で表記される。例えば、ウナギ(標準和名)の学名は、*Anguilla japonica*で、*Anguilla*が属名、*japonica*が種小名を表す。「種」をまとめたものを「属」、「属」をまとめたものを「科」、「科」をまとめたものを「目」という。

○ 標準和名

各々の種に付けられた日本全国の標準となる和名。標準和名の統一は、魚介類の分類に応じて日本魚類学会、日本貝類学会、日本甲殻類学会が取り組んでいる。

(3) 成長名、季節名

成長段階に応じた名称(成長名)や季節に応じた名称(季節名)がある生

鮮魚介類については、成長名や季節名がその内容と表すものとして一般に理解されるものである場合は、それらの名称を記載できることとする。

(例) 成長名と季節名の例

○成長名

- ・ブリ⇒ワカシ⇒イナダ⇒ワラサ⇒ブリ (東京)
⇒ツバス⇒ハマチ⇒メジロ⇒ブリ (大阪)
- ・サケ⇒ケイジ (母川に回帰する前の未成熟なもの)

○季節名

- ・サケ⇒アキアジ (秋頃に産卵のために沿岸に回遊してきたもの)
トキシラズ (春から初夏に沿岸に回遊してきたもの)

(4) 地方名

地域特有の名称 (地方名) がある生鮮魚介類については、その地方名がその内容を表すものとして一般に理解される地域においては、その地方名を記載することができることとする。ただし、その地方名が一般に理解される地域以外の地域においても販売される場合は、消費者がその魚介類の種を明確に識別できるよう地方名に標準和名を併記することとする。

(例) 地方名の例

標準和名	地方名 (対象地域)
キダイ	ハナダイ (神奈川)
チダイ	ハナダイ (小名浜、小湊)
スルメイカ	マイカ (三陸、北海道)
コウイカ	マイカ (瀬戸内海)
マアナゴ	ハモ (北海道・東北、山陰)

(5) 海外漁場魚介類及び外来種

海外漁場魚介類及び外来種については、標準和名がない種もあることから、消費者に優良誤認 (例えば分類学上無関係であるにもかかわらず高級魚類に似せた名称を付して、あたかもその類縁種であるように誤認させること) を生じさせないような配慮が必要であり、上記 (2) の生鮮魚介類の名称の一般ルールに従って、その内容を最も的確に表し一般に理解される名称を記載

することとする。

なお、輸入水産物については、生鮮食品品質表示基準に基づき、「名称」とともに「原産国名」（生産水域名の併記も可）を記載しなければならないこととされている。

以上の考え方に従って現在流通している海外漁場魚介類及び外来種の名称を例示すれば、別表２のとおりとなる。

（６）交雑種（ハイブリッド：hybrid）

異種・異属間で人為的に交配されて作出された魚介類の名称については、販売名称に「交雑種である旨」を併記することとする。

（例）交雑種であるブリヒラ（近畿大学の登録商標）の名称の表示例
ブリ×ヒラマサ（交雑種）

（７）ブランド名

ブランド名（商品名）は、ＪＡＳ法に基づく魚介類の「名称」ではないことから、魚介類の名称としては使用しないこととする。なお、ブランド名を任意に商品に表示することは差し支えないが、景品表示法の不当表示や生鮮食品品質表示基準の表示禁止事項に該当するような用語を使用してはならない。

（例）魚介類のブランド名の例

ブランド名（商品名）	関サバ	越前ガニ	明石ダコ
魚介類の名称（標準和名）	マサバ	ズワイガニ	マダコ

２．水産物加工品の原材料名

（１）加工食品品質表示基準の考え方

加工食品については、加工食品品質表示基準（平成１２年３月３１日農林水産省告示第５１３号）に基づき、「名称」（その加工品の内容を表す一般的な名称）と「原材料名」（原材料に占める重量の割合の多いものから順に、その最も一般的な名称）を記載することとされている。

また、原材料が魚類及び魚肉であって特定の種類の魚類の名称を表示していない場合は、原材料名として「魚」又は「魚肉」と記載できるほか、個別の品質表示基準や日本農林規格が定められている場合は、その基準や規格に

従って原材料名を記載するととされている。

(参考) 個別の品質表示基準や日本農林規格が定められている水産物加工品（平成15年3月1日現在）

「煮干魚類及び煮干魚類粉末」、「削りぶし」、「乾燥わかめ」、「塩蔵わかめ」、「うに加工品」、「特殊包装かまぼこ」、「風味かまぼこ」、「塩干魚類」、「塩蔵魚類」、「うなぎ加工品」、「水産物缶詰及び水産物瓶詰」、「調理冷凍食品」、「魚肉ハム及び魚肉ソーセージ」

(2) 一般ルール

水産物加工品は、一般に加工度が低く原材料がおおむね原形をとどめているものから、加工度が高く複数の原材料が混合使用され原形をとどめていないものまで多種多様なものがある。このため、水産加工品の原材料名については、生鮮魚介類の名称のルールを基本としつつ、品目特性に応じてその内容を最も的確に表し一般に理解される名称を記載することとする。

また、塩干物や味付け切り身等生鮮品に近似する加工度の低い水産物加工品については、消費者からの要望も踏まえ、生鮮魚介類の名称のルールに準じて原材料名を記載することとする。

(例) 低次水産物加工品の原材料名の表示例

水産物加工品の名称	原材料名
かれい干物 さけ粕漬け 塩蔵さけ	むしがれい べにざけ、酒粕、みりん、… しろさけ、食塩

(3) 水産物加工品のブランド名

水産物加工品のブランド名（商品名）は、JAS法に基づく水産物加工品の名称や原材料名ではないことから、これらの名称や原材料名としては使用しないこととする。なお、ブランド名を任意に商品に表示することは差し支えないが、景品表示法の不当表示や加工食品品質表示基準の表示禁止事項に該当するような用語を使用してはならない。

(例) 水産物加工品のブランド名の例

水産物加工品のブランド名	静岡産鰻蒲焼き	関あじ一夜干し
水産物加工品の名称	うなぎ蒲焼き	あじ一夜干し
原 材 料 名	うなぎ（静岡県）	まあじ（大分沖）

(注) うなぎ加工品、塩干あじ・さばについては、各々の水産加工品品質表示基準に基づき、原料原産地の表示が義務付けられている。

3 その他

(1) 新たに持ち込まれる魚介類の名称の取扱い

消費者ニーズの多様化等を背景に、今後も、外国から新たな魚介類がわが国に持ち込まれ、流通するケースが出てくるものと考えられる。このような新たに持ち込まれる魚介類は、標準和名がないものが多いので、魚類・貝類・甲殻類の各学会の専門家の協力を得て、検討会や名称作業部会等において、このガイドラインの考え方に従ってその名称の取扱いを検討し、別表の追加や修正を行うことが望ましい。

また、食品表示の分野において、魚介類の標準和名が極めて重要になっていることから、各学会において、新たに持ち込まれた種を含めた魚介類の標準和名の統一の作業が速やかに行われることが期待される。

(2) 適用猶予期間の設定

このガイドラインを踏まえた品質表示基準の実施に当たっては、名称の見直しによって消費者や販売業者が戸惑わないよう、十分な適用猶予期間を設けることが望ましい。

(別表1)

生鮮魚介類の名称例

標準和名 (種名)	左欄に代わる 一般的名称	学名 (種名)	備考
【魚 類】			
ウルメイワシ	—	<i>Etrumeus teres</i>	
マイワシ	—	<i>Sardinops melanostictus</i>	
カタクチイワシ	—	<i>Engraulis japonicus</i>	
ニシン	—	<i>Clupea pallasii</i>	
ウナギ	—	<i>Anguilla japonica</i>	
ハモ	—	<i>Muraenesox cinereus</i>	
キュウリウオ	—	<i>Osmeruseperlanus mordax</i>	
シシヤモ	—	<i>Spirinchus lanceolatus</i>	
ワカサギ	—	<i>Hypomesus nipponensis</i>	
チカ	—	<i>Hypomesus japonicus</i>	
アユ	—	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	
シラウオ	—	<i>Salangichthys microdon</i>	
イワナ	—	<i>Salvelinus leucomaenis</i>	
ニジマス	—	<i>Oncorhynchus mykiss</i>	
サクラマス	ヤマメ (*)	<i>Oncorhynchus masou masou</i>	* 陸封型に限る。
サツキマス	アマゴ (*)	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	
カラフトマス	アオマス	<i>Oncorhynchus gorbuscha</i>	
サケ	シロサケ	<i>Oncorhynchus keta</i>	
ギンザケ	—	<i>Oncorhynchus kisutch</i>	
マスノスケ	キングサーモン	<i>Oncorhynchus tshawytscha</i>	
ベニザケ	ヒメマス (*)	<i>Oncorhynchus nerka</i>	
マエソ	—	<i>Saurida sp.</i>	
ワニエソ	—	<i>Saurida wanieso</i>	
サンマ	—	<i>Cololabis saira</i>	
サヨリ	—	<i>Hyporhamphus sajori</i>	
トビウオ	—	<i>Cypselurus agoo agoo</i>	
マダラ	—	<i>Gadus macrocephalus</i>	
スケトウダラ	スケソウダラ	<i>Theragra chalcogramma</i>	
キアンコウ	アンコウ	<i>Lophius litulon</i>	
キンメダイ	—	<i>Beryx splendens</i>	
ボラ	—	<i>Mugil cephalus cephalus</i>	
アカカマス	—	<i>Sphyraena pinguis</i>	
ヤマトカマス	—	<i>Sphyraena japonica</i>	
スズキ	—	<i>Lateolabrax japonicus</i>	
キジハタ	—	<i>Epinephelus akaara</i>	
クエ	—	<i>Epinephelus bruneus</i>	
マハタ	—	<i>Epinephelus septemfasciatus</i>	
ムツ	—	<i>Scombrops boops</i>	
ブリ	—	<i>Seriola quinqueradiata</i>	
ヒラマサ	—	<i>Seriola lalandi</i>	
カンパチ	—	<i>Seriola dumerili</i>	
マアジ	—	<i>Trachurus japonicus</i>	
ムロアジ	—	<i>Decapterus muroadsi</i>	
マルアジ	—	<i>Decapterus maruadsi</i>	
シマアジ	—	<i>Pseudocaranx dentex</i>	
イトヒラアジ	—	<i>Carangichthys dinema</i>	
ギンガメアジ	ヒラアジ (*)	<i>Caranx sexfasciatus</i>	* ギンガメアジ属の総称
シイラ	—	<i>Coryphaena hippurus</i>	
シログチ	イシモチ	<i>Pennahia argentata</i>	
クログチ	—	<i>Atrobucca nibe</i>	
キグチ	—	<i>Larimichthys polyactis</i>	
バラヒメダイ	—	<i>Pristipomoides typus</i>	
イサキ	—	<i>Parapristipoma trilineatum</i>	

標準和名 (種名)	左欄にかわる 一般的名称	学名 (種名)	備考
ソコイトヨリ イトヨリダイ	— イトヨリ	<i>Nemipterus bathybius</i> <i>Nemipterus virgatus</i>	
キダイ	レンコダイ	<i>Dentex tumifrons</i>	
チダイ	—	<i>Evynnis japonica</i>	
マダイ	—	<i>Pagrus major</i>	
クロダイ	—	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>	
ツボダイ	—	<i>Pentaceros japonicus</i>	
イシダイ	—	<i>Oplegnathus fasciatus</i>	
ハタハタ	—	<i>Arctoscopus japonicus</i>	
スギ	—	<i>Rachycentron canadum</i>	
バショウカジキ	—	<i>Istiophorus platypterus</i>	
マカジキ	—	<i>Tetrapturus audax</i>	
クロカジキ	—	<i>Makaira mazara</i>	
シロカジキ	—	<i>Makaira indica</i>	
メカジキ	—	<i>Xiphias gladius</i>	
マサバ	—	<i>Scomber japonicus</i>	
ゴマサバ	—	<i>Scomber australasicus</i>	
サワラ	—	<i>Scomberomorus nipponius</i>	
カツオ	—	<i>Katsuwonus pelamis</i>	
キハダ	キハダマグロ	<i>Thunnus albacares</i>	
メバチ	バチマグロ、メバチマグロ	<i>Thunnus obesus</i>	
ビンナガ	ビンチョウ、ビンナガマグロ	<i>Thunnus alalunga</i>	
クロマグロ	ホンマグロ	<i>Thunnus thynnus</i>	
ミナミマグロ	インドマグロ	<i>Thunnus maccoyii</i>	
タチウオ	—	<i>Trichiurus japonicus</i>	
メバル	—	<i>Sebastes inermis</i>	
ウスメバル	—	<i>Sebastes thompsoni</i>	
クロメスケ	—	<i>Sebastes glaucus</i>	
ヤナギメバル	—	<i>Sebastes itinus</i>	
ヤナギノマイ	—	<i>Sebastes steindachneri</i>	
アコウダイ	—	<i>Sebastes matsubarae</i>	
アラメスケ	—	<i>Sebastes aleutianus</i>	
アラスカメスケ	—	<i>Sebastes alutus</i>	
バラメスケ	—	<i>Sebastes baramenue</i>	
クロソイ	—	<i>Sebastes schlegelii</i>	
カサゴ	—	<i>Sebastiscus marmoratus</i>	
ギンダラ	—	<i>Anoplopoma fimbria</i>	
アイナメ	—	<i>Hexagrammos otakii</i>	
ホッケ	—	<i>Pleurogrammus azonus</i>	
キタノホッケ	シマホッケ	<i>Pleurogrammus monopterygius</i>	
ホウボウ	—	<i>Chelidonichthys spinosus</i>	
カナガシラ	—	<i>Lepidotrigla microptera</i>	
ヒラメ	—	<i>Paralichthys olivaceus</i>	
クロウシノシタ	シタビラメ (*)	<i>Paraplagusia japonica</i>	* ウシノシタ 科の総称
アカシタビラメ	シタビラメ (*)	<i>Cynoglossus joyneri</i>	
アブラガレイ	—	<i>Atheresthes evermanni</i>	
カラスガレイ	—	<i>Reinhardtius hippoglossoides</i>	
オヒョウ	—	<i>Hippoglossus stenolepis</i>	
アカガレイ	—	<i>Hippoglossoides dubius</i>	
ソウハチ	—	<i>Hippoglossoides pinetorum</i>	
ムシガレイ	—	<i>Eopsetta grigorjewi</i>	
マツカワ	—	<i>Verasper moseri</i>	
メイタガレイ	—	<i>Pleuronichthys cornutus</i>	
アサバカレイ	—	<i>Pleuronectes mochigarei</i>	
コガネガレイ	—	<i>Pleuronectes asper</i>	
マガレイ	—	<i>Pleuronectes herzensteini</i>	
マコガレイ	—	<i>Pleuronectes yokohamae</i>	

標準和名 (種名)	左欄に代わる 一般的名称	学名 (種名)	備考
クロガレイ イシガレイ ヤナギムシガレイ ヒレグロ ババガレイ	— — — — ナメタガレイ	<i>Pleuronectes obscurus</i> <i>Kareius bicoloratus</i> <i>Tanakius kitaharai</i> <i>Glyptocephalus stelleri</i> <i>Microstomus achne</i>	
カワハギ ウマツラハギ	— —	<i>Stephanolepis cirrifer</i> <i>Thamnaconus modestus</i>	
トラフグ カラス ショウサイフグ ナシフグ マフグ シロサバフグ クロサバフグ	— — — — — — —	<i>Takifugu rubripes</i> <i>Takifugu chinensis</i> <i>Takifugu snyderi</i> <i>Takifugu rermicularis</i> <i>Takifugu porphyreus</i> <i>Lagocephalus wheeleri</i> <i>Lagocephalus gloveri</i>	
【 貝 類 】			
トコブシ メガイアワビ クロアワビ エゾアワビ マダカアワビ	— — — — —	<i>Haliotis diversicolor aquatilis</i> <i>Haliotis gigantea</i> <i>Haliotis discus discus</i> <i>Haliotis discus hannai</i> <i>Haliotis madaka</i>	
サザエ	—	<i>Turbo cornutus</i>	
アカニシ	—	<i>Rapana venosa</i>	
エゾボラ、 チジミエゾボラ、 チョウセンボラ等	ツブ、バイ	<i>Neptunea</i> 属 (エゾボラ属)	
エゾバイ、ツバイ、 シライトマキバイ等	ツブ、バイ	<i>Buccinum</i> 属 (エゾバイ属)	
アカガイ サルボウガイ	— —	<i>Scapharca broughtonii</i> <i>Scapharca kagoshimensis</i>	
ムラサキイガイ イガイ	ムールガイ —	<i>Mytilus galloprovincialis</i> <i>Mytilus coruscus</i>	
タイラギ	タイラガイ	<i>Atrina pectinata</i>	
イタヤガイ	—	<i>Pecten albicans albicans</i>	
ホタテガイ	—	<i>Patinopecten yessoensis</i>	
マガキ イワガキ スミノエガキ	— — —	<i>Crassostrea gigas</i> <i>Crassostrea nippona</i> <i>Crassostrea ariakensis</i>	
バカガイ ウバガイ	アオヤギ ホッキガイ	<i>Mactra chinensis</i> <i>Pseudocardium sachalinensis</i>	
ミルカイ	ミルガイ	<i>Tresus keenae</i>	
ヤマトシジミ	—	<i>Corbicula japonica</i>	
アサリ	—	<i>Ruditapes philippinarum</i>	
ハマグリ ミスハマグリ	— —	<i>Meretrix lusoria</i> <i>Metetrix lyrata</i>	
ナミガイ	シロミル	<i>Panopea japonica</i>	
【 頭 足 類 】			
コウイカ	—	<i>Sepia esculenta</i>	
ケンサキイカ	—	<i>Loligo edulis</i>	
ヤリイカ	—	<i>Loligo bleeker</i>	
アオリイカ	—	<i>Sepioteuthis lessoniana</i>	
ホタルイカ	—	<i>Watasenia scintillans</i>	
スルメイカ	—	<i>Todarodes pacificus</i>	
アカイカ	—	<i>Ommastrephes bartramii</i>	

標準和名 (種名)	左欄に代わる 一般的名称	学名 (種名)	備考
【 頭 足 類 】			
マダコ	—	<i>Octopus vulgaris</i>	
テナガダコ	—	<i>Octopus minor</i>	
イイダコ	—	<i>Octopus ocellatus</i>	
ミスダコ	—	<i>Octopus dofleini</i>	
ヤナギダコ	—	<i>Octopus conispadiceus</i>	
【 甲 殻 類 】			
クマエビ	—	<i>Penaeus semisulcatus</i>	
ウシエビ	ブラックタイガー	<i>Penaeus monodon</i>	
クルマエビ	—	<i>Marsupenaeus japonicus</i>	
コウライエビ	タイショウエビ	<i>Fenneropenaeus chinensis</i>	
サクラエビ	—	<i>Sergia lucens</i>	
シバエビ	—	<i>Metapenaeus joyneri</i>	
ヨシエビ	—	<i>Metapenaeus ensis</i>	
ボタンエビ	—	<i>Pandalus nipponensis</i>	
ホッカイエビ	ホッカインマエビ	<i>Pandalus latirostris</i>	
ホッコクアカエビ	アマエビ、ナンバンエビ	<i>Pandalus eous</i>	
トヤマエビ	—	<i>Pandalus hypsinotus</i>	
イセエビ	—	<i>Panulirus japonicus</i>	
タラバガニ	—	<i>Paralithodes camtschatica</i>	
アブラガニ	—	<i>Paralithodes platypus</i>	
ハナサキガニ	—	<i>Paralithodes brevipes</i>	
ズワイガニ	—	<i>Chionoecetes opilio</i>	
ベニズワイガニ	—	<i>Chionoecetes japonicus</i>	
ケガニ	—	<i>Erimacrus isenbeckii</i>	
ガザミ	ワタリガニ	<i>Portunus trituberculatus</i>	
【 そ の 他 】			
イワシクジラ	—	<i>Balaenoptera borealis</i>	
ミンククジラ	—	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	
ナガスクジラ	—	<i>Balaenoptera physalus</i>	
ニタリクジラ	—	<i>Balaenoptera edeni</i>	
ザトウクジラ	—	<i>Megaptera nouvaengliae</i>	
マッコウクジラ	—	<i>Physeter macrocephalus</i>	
ツチクジラ	—	<i>Barardius bairdii</i>	
コビレゴンドウ	—	<i>Globicephala macrorhynchus</i>	
ハナゴンドウ	—	<i>Grampus griseus</i>	
オキゴンドウ	—	<i>Pseudorca crassidens</i>	
バンドウイルカ	—	<i>Tursiops truncatus</i>	
スジイルカ	—	<i>Stenella coeruleoalba</i>	
マダライルカ	—	<i>Stenella attenuata</i>	
イシイルカ	—	<i>Phocoenoides dalli</i>	

- 注) 1. 平仮名、カタカナ、漢字、混合いずれの表記も可。
2. 複合名の場合、下接名の語頭の濁音の取扱いは任意。
(例) スケトウダラ、スケソウタラ
3. 標準和名は「日本産魚名大辞典」(日本魚類学会編)、「日本産魚類検索(第2版)」(中坊徹次)、「日本近海貝類図鑑」(奥谷喬司)、世界海産貝類大図鑑(波部忠重・奥谷喬司)、原色日本大型甲殻類図鑑(三宅貞祥)日本産エビ類の分類と生態(林健一)等による。

(別表 2)

海外漁場魚介類及び外来種の名称例

学名 (種名)	標準和名 (種名)	左欄に代わる 一般的名称	使用しないこ ととする名称	備考
【 魚 類 】				
<i>Dissostichus eleginoides</i>	—	マジエランアイ ナメ メロ (*)	ギンムツ ムツ	* 取引名
<i>Dissostichus mawsoni</i>	—	ライギョダマシ メロ (*)		
<i>Gasterochisma melampus</i>	—	ガストロ	—	
<i>Genypterus capensis</i>	—	キングクリップ (*)	アマダイ	* 英名
<i>Helicolenus percoides</i>	—	ミナミユメカサ ゴ シーパーチ (*)	—	* 英名
<i>Ictalurus punctatus</i>	—	アメリカナマズ チャネルキャッ トフィッシュ (*)	シミズダイ カワフグ	* 英名
<i>Lateolabrax</i> sp. (学名未定)	タイリクスズキ	ホシスズキ	—	
<i>Lates niloticus</i>	—	ナイルパーチ (*)	スズキ シロスズキ	* 英名
<i>Macruronus novaezalandiae</i>	—	ホキ (*)	—	* 英名
<i>Mallotus villosus</i>	カラフトシシヤモ	—	—	
タラ目メルルーサ科 <i>Merluccius</i> 属	—	メルルーサ (*)	—	* 科名
<i>Oncorhynchus mykiss</i> (降海型)	ニジマス (降海型)	スチールヘッド トラウト (*) サーモントラウ ト (**) スチールヘッド	—	* 英名 * * (河川 生活性の強 い) サケ・ マス類の降 海型の総称
<i>Oreochromis mossambicus</i>	カワスズメ	—	—	
<i>Oreochromis niloticus</i>	イズミダイ	チカダイ	—	
<i>Rachycentron canadum</i>	スギ	—	クロカンパチ トロカンパチ	
<i>Salmo salar</i>	タイセイヨウサケ	アトランティッ クサーモン (*)	—	* 英名
<i>Sebastes marinus</i>	—	タイセイヨウア カウオ、 ゴールデン・レ ッドフィッシュ (*)	—	* 英名
<i>Seriolaella punctata</i>	—	シルバー、シル バーワレフー (*)	オキブリ ギンヒラス	* 英名
<i>Seriolaella caerulea</i>	—	ホワイトワレフ ー (*)		
<i>Seriolaella brama</i>	—	ブルーワレフー (*)		

学名 (種名)	標準和名 (種名)	左欄に代わる 一般的名称	使用しないこ ととする名称	備考
【 貝 類 】				
<i>Nolohabiotis ruber leach</i>	アカアワビ	—	—	
<i>Concholepas concholepas</i>	アワビモドキ	ロコガイ (*)	チリアワビ	*原産国(チリ)での名称
<i>Neptunea arthritica cumingii</i>	チョウセンボラ	ツブ、バイ	サザエ	
<i>Rapana venosa</i>	アカニシ	—	サザエ	
<i>Perna canaliculus</i>	モエギイガイ	パーナガイ	—	
<i>Argopecten irradians</i>	—	アメリカイタヤガイ ベイ・スキャロップ (*)	ホタテガイ	*英名
<i>Argopecten purpuratus</i>	—	ムラサキイタヤガイ パープリッシュ・スキャロップ (*)	ホタテガイ	*英名
<i>Placopecten magellanicus</i>	—	マゼランツキヒガイ ディープ・シー・スキャロップ (*)	ホタテガイ	*英名
<i>Spisula solidissima</i>	—	アメリカウバガイ アトランティック・サーフクラム (*)	ウバガイ ホッキガイ	*英名
<i>Corbicula fulminea</i>	タイワンシジミ	—	—	
【 甲 殻 類 】				
<i>Penaeus dourarum</i> など	—	ピンクエビ	—	
<i>Penaeus indicus</i>	インドエビ	—	—	
<i>Penaeus merguensis</i>	—	バナナエビ	—	
<i>Metapenaeus endeavouri</i>	—	エンデバーシユリンプ (*)	—	*英名
<i>Homarus americanus</i>	—	アメリカンロブスター	—	

- 注) 1. 平仮名、カタカナ、漢字、混合いずれの表記も可。
2. 複合名の場合、下接名の語頭の濁音の取扱いは任意。
(例) すけそうだら、すけそうたら
3. 標準和名は「日本産魚名大辞典」(日本魚類学会編)、「日本産魚類検索 (第2版)」(中坊徹次)、「日本近海貝類図鑑」(奥谷喬司)、世界海産貝類大図鑑(波部忠重・奥谷喬司)、原色日本大型甲殻類図鑑(三宅貞祥) 日本産エビ類の分類と生態(林健一)等による。